

射道建第811号
平成20年10月27日

国土交通省道路局長 殿

射水市長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のあった標記の
件について、別添のとおり回答します。

- ・ 社会基盤の中核を成す道路整備

道路行政はインフラ整備の中核を成すものと考えている。地域の経済及び一般生活を支える重要な柱である。特に費用対効果が見えにくい地方が置き去りされる事は許されるものではない。しっかりとした将来ビジョンに基づく道路整備は、投資効果に左右されず積極的に実施すべきである。長期的な視野に立ち、地方の発展を導く必要があると考えられる。

- ・ 道路維持管理補助制度の創設

昨今では、過去に整備された路線の維持管理に多大な経費を要している。通過する車や人々を和ませる街路樹や花壇、傷みなどの損傷が激しい路面。これ等の維持管理を怠ることは、地域の景観を損なうだけでなく、人命を危うくする原因ともなるため、日常的にその必要性に迫られている。如いては地方財政の大きな負担となっているのが現状である。

- ・ 災害に即応できる制度化

近年地震、ゲリラ豪雨等の災害は、予測をはるかに越え、且つ局地的に発生している。被災者としては、一般生活を早急に取り戻すことが重要な課題である。そのためにも被災を受けた道路の復旧には、迅速な対応が求められる。しかしながら、多大な被害の復旧には、災害指定や査定等の諸手続きを必要としている。これ等にまして更なる早急な対応が可能となる手法の制度化が望まれている。

- ・ 交通弱者に優しいみちづくり制度のメニュー化

高齢社会が進むなか、高齢者や障害者にやさしいみちづくりが望まれている。自宅から公共施設や病院等へ安心して通える歩道網整備とバリアフリー化が望まれている。地域を一体的に捉え、歩道段差の解消から点字ブロックの有機的な結合までの多彩なメニューを総合的に整備する手法が必要とされている。

これ等を考慮し今後の道路行政を考える場合には、以下の内容に配慮願いたい。

1. 道路特定財源の一般化においても従来どおりの道路予算を確保し、地方の道路整備に対し需要に応えた予算の確保
2. 道路維持管理に対する補助及び交付金制度の創設
3. 現在の地方道路整備臨時交付金制度を維持し、災害への早急な対応と現制度での災害指定が受けにくい軽微な災害をも対応可能となる制度の確立、またバリアフリー化に対する総合的整備が可能となるメニューの拡充
4. 道路整備に対する地方負担の軽減平準化を図るため、地方道路整備臨時貸付金制度の継続
5. 道路整備においては、今迄以上に直接利用する地元の住民や自治体の意見を十分に配慮されたい

②－１ 地域の現状と抱える課題

富山県射水市

○現状	○課題
1. 平成17年に5市町村の合併により誕生した「射水市」であり、旧市町村間の交流が重要な課題である。これらを促進する連結道路の整備が急務である。 2. 合併により誕生した市であり、都市機能としての幹線道路網の整備が急務である。 3. 地方の道路整備とは地域生活に密着したものであり、県道、市道と一体的に整備を進める必要がある。	1. 旧市町村間の融和が急務であり、順次に道路整備との時間的な猶予が無く、同時に多方面での整備が要求されており、多大な財政負担となっている。 2. 都市としての機能確保が早急な課題である。都市環状軸となる幹線道路網は国県道が担っているが、厳しい財政事情により、事業費確保が難しい状況であることから、整備がなかなか進まないのが現状である。 3. 県道の整備進捗が進まない分、市道単独整備費の負担が増大している。生活密着型道路整備の県単独事業費の増額が必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

4. 既存道路の維持管理は、景観の保持並びに安全性の確保からも必要不可欠である。

4. 維持管理に要する費用負担は過大な負担となっており、今後も増大すると想定される。

「快適で利便性の高いまちづくり」

本市は富山市と高岡市の間に位置する地理的条件から東西方向に強い幹線道路網となっている。一方、南北方向の幹線道路は未整備区間が多く、都市計画道路七美太閤山線高架橋の整備、県道新湊庄川線のJR北陸線アンダーパス化が鋭意整備中である。特に、JR北陸線の踏切りを中心とした朝夕の交通渋滞の解消が重要な課題である。

中長期的重点整備として、新湊大橋を含む臨港道路富山新港東西線の整備、国道8号と市街地を結ぶ幹線道路の整備、富山新港周辺の開発を支援する道路整備等が必要である。

このことから、東西道路として、能越自動車道の高岡北インターチェンジへ連絡する都市計画道路北島牧野作道線や国道8号を補完し、富山北部地区へ連絡する(仮)七美荒屋線等の整備促進が求められている。

また、道路を生活空間の一部としてとらえ、「車」中心から「人」中心としたコミュニティ道路の整備等、景観や地域と調和した親しみある道路の整備を図る必要がある。

○ 機能的でうるおいあるみちづくり

1. 高齢社会に対応した安全なみちづくり
段差や障害物のない歩道の整備等バリアフリー化の整備
夜間の安全な交通を確保する照明の整備
2. 風土、文化の香り高い暮らしのみちづくり
快適に歩くことができ、地域の歴史、伝統文化に配慮した道路景観の整備
3. 快適空間(景観)を感じとることができる豊かなみちづくり
無電柱化や街灯、ポケットパークの整備等景観に配慮した道路整備
街路樹等による緑を生かした心なごむ道路環境の整備
4. 高度情報化社会に対応したみちづくり
道路標識、気象情報、凍結予測情報、除雪情報等情報提供の充実
5. 災害に強いみちづくり
適切な道路の消雪・除排雪等、雪害に強い道路整備

○ 幹線道路の整備

1. 国道・県道・生活圏道路の整備

国道8号坂東交差点立体化の整備促進

都市計画道路七美太閤山線の整備促進

県道新湊庄川線の整備促進

都市計画道路北島牧野作道線の整備促進

(仮)七美荒屋線の整備促進

歩道設置及びバリアフリー化や景観整備等の推進

2. 生活圏道路の整備

地域間や公共施設等を結ぶ幹線市道の整備促進

富山新港臨海工業地帯と国道8号を交差し、JR小杉駅へ連結する道路の整備促進

富山西インターチェンジへのアクセス道路の整備促進

歩道設置、交差点改良、道路拡幅改良、JR踏切改良等道路の利便性・安全性の向上

3. 伏木富山港3地区を連結する道路の整備

新湊大橋を含む伏木富山港(伏木地区、新湊地区、富山地区)も沿岸地域を有機的に連結する道路の整備促進

4. 道路網整備の推進

幹線道路の交通ネットワークの整備

都市計画道路の整備促進

未着手都市計画道路の検討

○ 広域幹線道路の整備

1. 高速自動車道路等の整備

東海北陸自動車道路等の四車線化及び能越自動車道の整備促進

高速自動車道、富山空港等への交通アクセスの高速化、利便性の向上

○ 北陸新幹線開通に向けた交通体系の整備

今後の道路行政についての意見・提案

1. 北陸新幹線開通に伴う道路網の整備

(ア) 新高岡駅(仮称)へのアクセス道路の利便性向上

(イ) 新幹線ルート沿線及び周辺地域の道路網の整備

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

富山県射水市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・機能的でうるおいあるみちづくり	都市計画道路東老田高岡線景観整備事業 (事業内容) 歩道拡幅、歩道段差の解消、歩道のカラーブロック化、街路灯整備、点字ブロック設置	市街地内幹線道路の景観整備であり、高齢者や障害者にも安心して通れる歩道のバリアフリー化及び、夜間でも安全して通れる歩道空間の確保を目的とする。	
・機能的でうるおいあるみちづくり	下条川散策路整備事業 (事業内容) 歩道橋設置、歩道舗装、植栽、休憩施設設置	市街地内を流れる二級河川の堤防を利用した散策路整備であり、自然の景観を感じ、地域の伝統文化のレリーフを鑑賞しながら散策できる快適でゆとりのある空間の確保。	
・幹線道路の整備	国道8号坂東交差点立体化事業 (事業内容) 主要地方道新湊庄川線との交差点部の立体化	県の基幹道路である国道8号と射水市の都市環状軸を形成する主要地方道新湊庄川線の交差点部で生じている慢性的な渋滞の緩和を目的とする。	
・幹線道路の整備	臨港道路富山新港東西線整備事業 (事業内容) 橋梁部約600mの日本海側最大級で、車道と自転車歩行者道の2層構造を持つ複合斜張橋	富山新港により分断された東西地区を結ぶ橋梁整備。物流の効率化や交通アクセスの向上等を目的とする。	

今後の道路行政についての意見・提案

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・幹線道路の整備	主要地方道小杉婦中線整備事業 「都市計画道路七美太閤山線整備」 (事業内容) 住宅地及びJR北陸線、主要地方道富山高岡線を高架橋にて横断	主要地方道小杉婦中線で住宅地及びJR北陸線区間を高架橋で結ぶものである。射水市の都市環状軸を形成し、南北間の物流並びに交流の基幹道路となる。	
・幹線道路の整備	市道三ヶ34号線整備事業 (事業内容) 道路拡幅、歩道整備	JR北陸線小杉駅より、主要地方道富山高岡線と国道8号を結ぶ道路である。将来的には国道8号と交差して国道415号に連結し、臨海工業地帯との利便性の向上を図るものである。	
・幹線道路の整備	道の駅「カモンパーク新湊」駐車場拡張事業 (事業内容) 既存駐車場(10,200 m ²)の隣接地を取得し、全体駐車場(15,500 m ²)に拡張	本市の陸の玄関口として、最新情報発信基地とした機能拡充を図る。また、防災拠点としての役割と利用者の利便性を高める。	